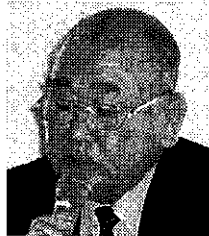


日本溶剤リサイクル工業会 川瀬会長を再任へ



日本溶剤リサイクル工業会（川瀬泰淳会長）は、21

日午後2時20分から東京都千代田区のパレスホテルで、第13回定期総会を開催し、任期満了により行われた役員の改選で、川瀬会長の再任を決めた。審議に先立ちあいさつに立った川瀬会長は写真には、「当工業会も現在、正会員27社、賛助会員18社、また昨年未新に設立した

しました個人賛助会員が7人となりました。本年でのリサイクル工業会も14年目を迎えました。これもひとえに本日参加いただきました皆様のお陰です」と謝辞を述べた。引き続き、川瀬会長を議長に、平成18年度事業報告・決算報告、19年度事業計画並びに予算の各案が審議され、各案とも原案通り了承された。事業計画では、調査研究事項として、国内における溶剤リサイクルの実態調査、関連する法規制・制度の研究と対応、市場拡大のための研究と対策などを進

めと共に、各種会議、広報活動を推進する。また、溶剤リサイクルに関連する事業所・機関などの見学会や講演会を開催し、会員企業との技術のレベルアップにつながる情報収集、情報交換を行う。

また、任期満了に伴い行われた役員改選で川瀬会長の再任を決めたほか、新理事に田原泰昌氏を選出した。新役員は次の通り。

▽会長 川瀬泰淳（日本リファイン）▽副会長 百目鬼健（太平化成）▽理事

川杉浦栄（豊田化学工業）樋口克彦（中国精油）田原泰昌（日本エネコジー）▽監事 佐野正（小倉炭素留）中里協弘（化研興業）

総会終了後、横浜国立大学の田村昌三教授が「溶剤リサイクルにおける安全管理」の題で特別講演会を行い、そこで、リサイクルにおける潜在的危険性とその評価、化学物質のライフサイクルなど、実例を示しながら解説。危険を回避し安全化に期待すると話した。